



繪本倭詩經

竹

Λ13
4488
2





^13
4488
2

思案 橋 女 乃 乃
案 案 女 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃



中ノ巻



漢書曰一顧傾人城再顧傾人國今世好色の輩淫女の如くに家を
傾身を没するの勝て計だうも後鶴林玉露心を一顧傾城再顧傾國
色也とりり嗟夫とてええも止なきもの傾城がひあり

実法（じつぽう）の（れ）ど



中ノ二

頭（かぶ）

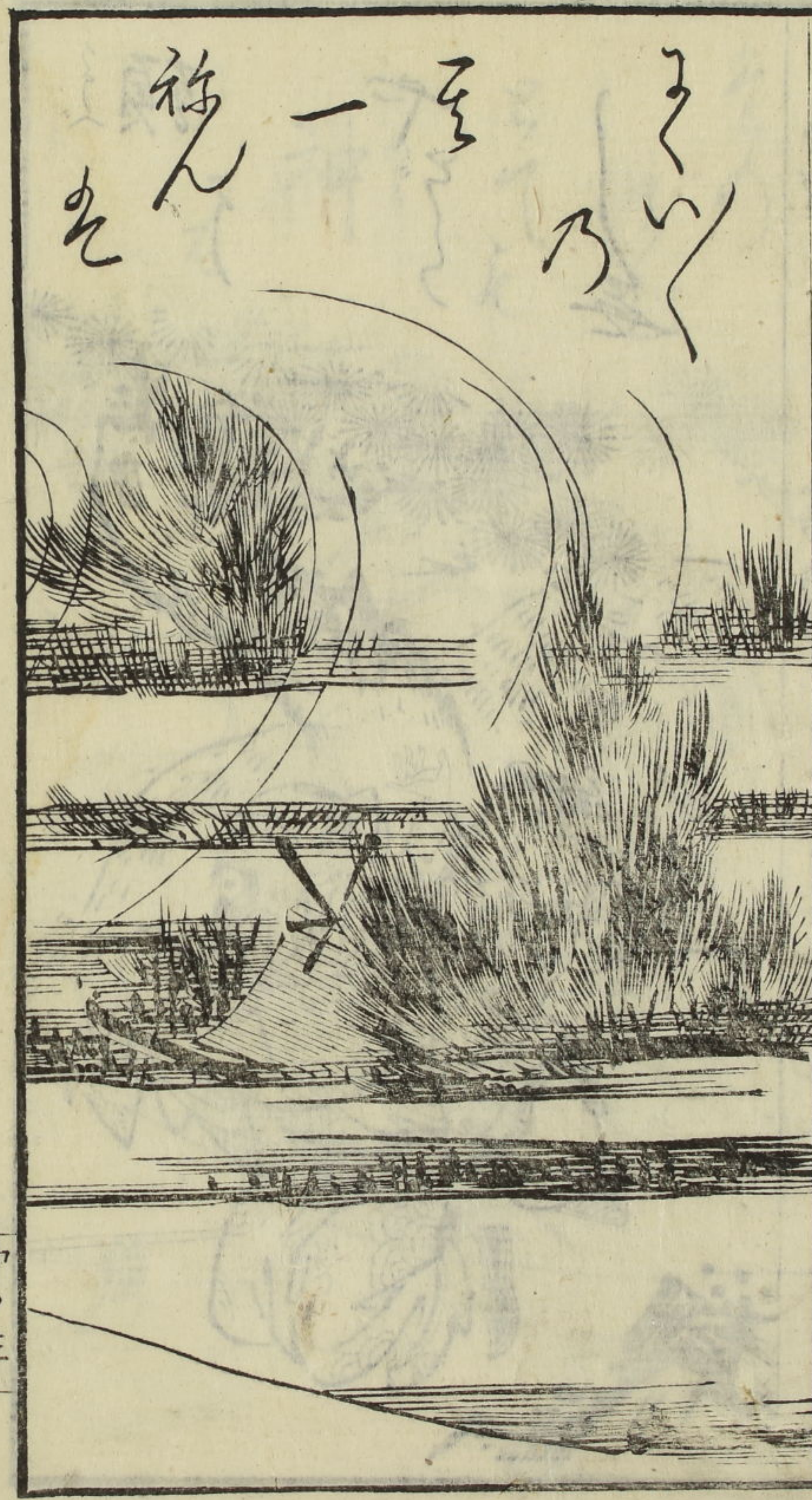
や
ろ



神ハ正直（しんちやうじき）の（う）へ（ふ）や（ど）り（ふ）ハ（ま）治（ち）の（い）ま（り）あり（ふ）ふ（だ）は（ま）の（な）ふ（う）る（ひ）
 な（い）の（ま）ど（と）も（神）や（は）も（ら）ん（と）あ（ん）正（ち）直（じ）の（心）神（しん）佛（ぶつ）陀（だ）の（真（ま）意（い）小（こ）る（る）す（す）め（め）
 う（い）有（あ）べ（の）心（しん）不（ふ）正（ち）直（じ）に（し）て（心）曲（まが）ら（う）ハ（御（ご）罪（ざい）を（蒙（もう）る（る）み（み）う（う）ろ（ろ）う（う）ひ（ひ）ま（ま））世（よ）れ
 人（ひと）其（その）心（しん）も（も）な（な）く（く）氣（き）清（きよ）れ（れ）な（な）ふ（ふ）と（と）ま（ま）ハ（利（り）生（せい）と（と）り（り）の（の）と（と）あ（あ）り（り）世（よ）れ（れ）ふ（ふ）お（お）ろ（ろ）う（う）
 る（る）也（や）神（しん）ハ（遊（あそ）び）れ（れ）紙（し）交（か）り（り）は（は）さ（さ）き（き）を（を）な（な）り（り）



新 木 河 瀬
釘



乃 一 後
光

女房のちやんとせんきよのつひける十人かたわらものるうねれどもわまり
あつたふうたひでさうひの基あり足みよつておの由さうのやうにうく
災難おころものありふく見さけ離別とらふあうしもの後さみさうい
なと孔ふものさうり

世短意常多よひこころおほく 古詩云人生不滿百常懷千歲憂こしよんじんせいふまひやく ちようかいせんさいおうれ
 一いつて老年らうねんの心こころを捨すてて足たりことをあへへるは安然あんぜん
 和尚しやうしやうの童子どうし教しふと遺教いせう經きやうの説せつふはつとは隆富りゆうふ心こころに欲よくぬはくは足たりと名なづくあはく
 貧人ひんじんととは隆富りゆうふ心こころに欲よくぬはくは足たりと名なづくあはく
 知足ちそくと説せつ儒にうの知足ちそく知止ちしの譚たんなり



年としハ
 ねハ
 ねハ
 寄よ

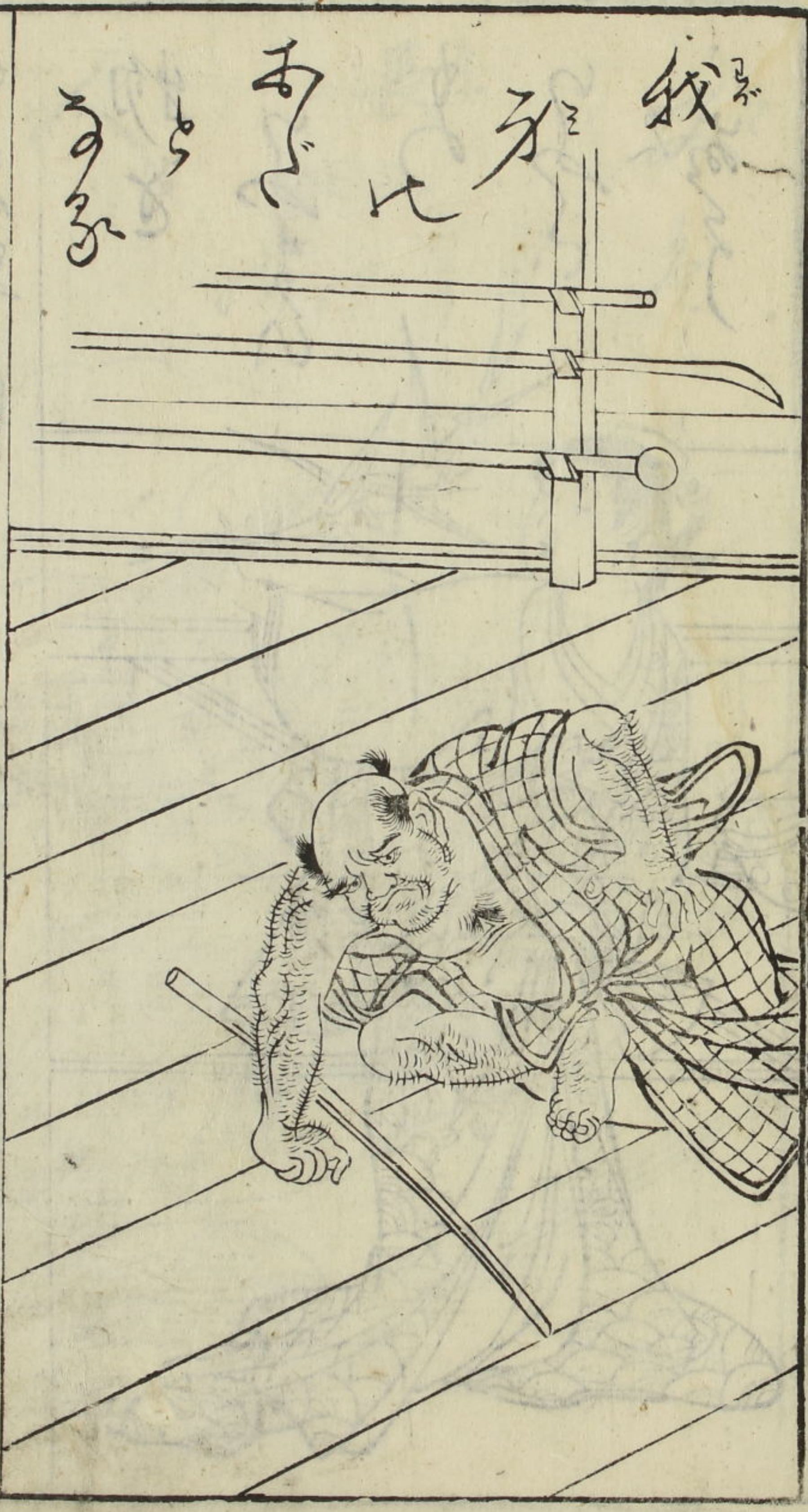


の
 世よ
 世よ



人 へ 願 せ 思 へ 丁 ぞ や ぐ せ

中ノ巻



我 ぞ 牙 へ せ ぞ り ぞ

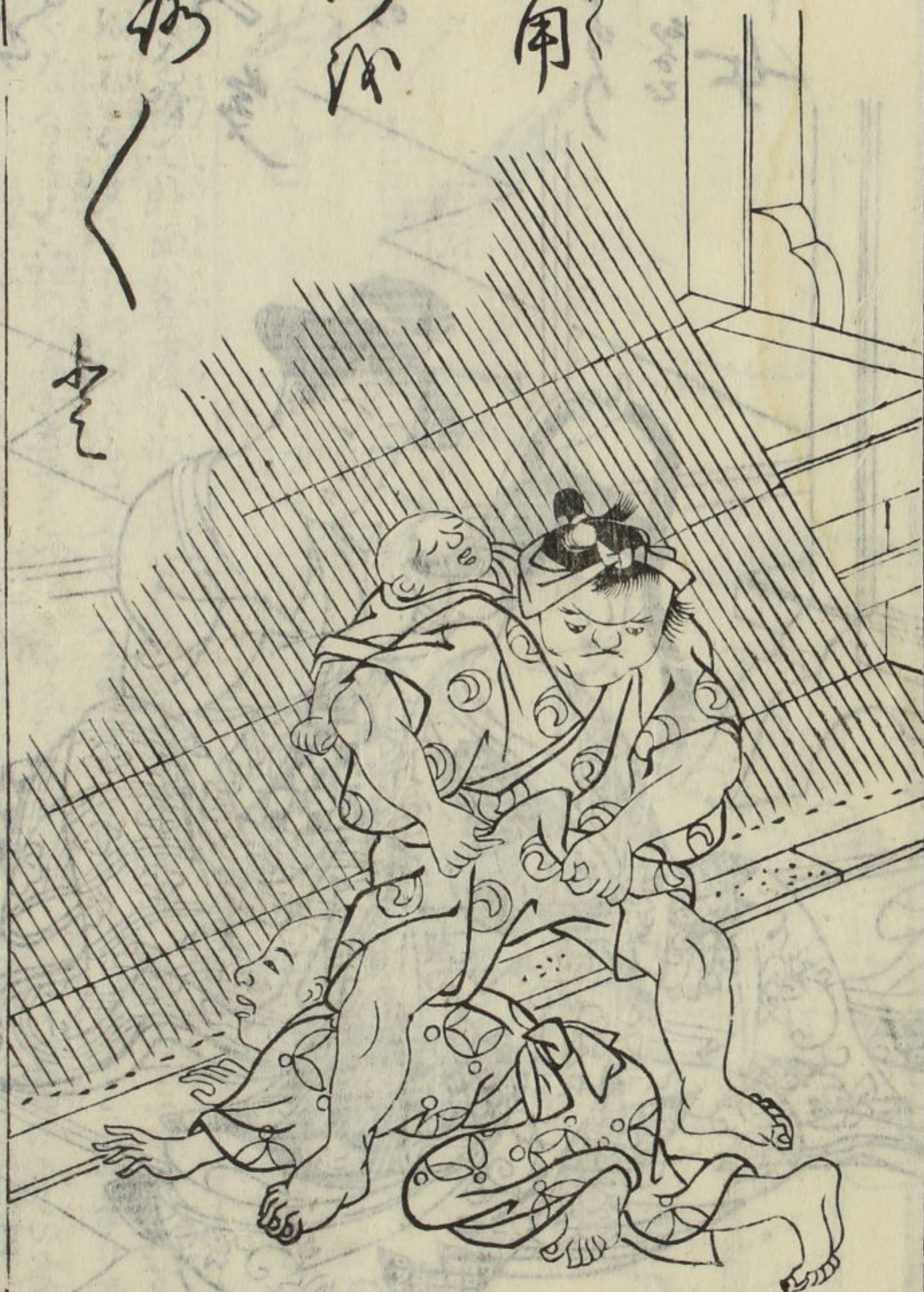
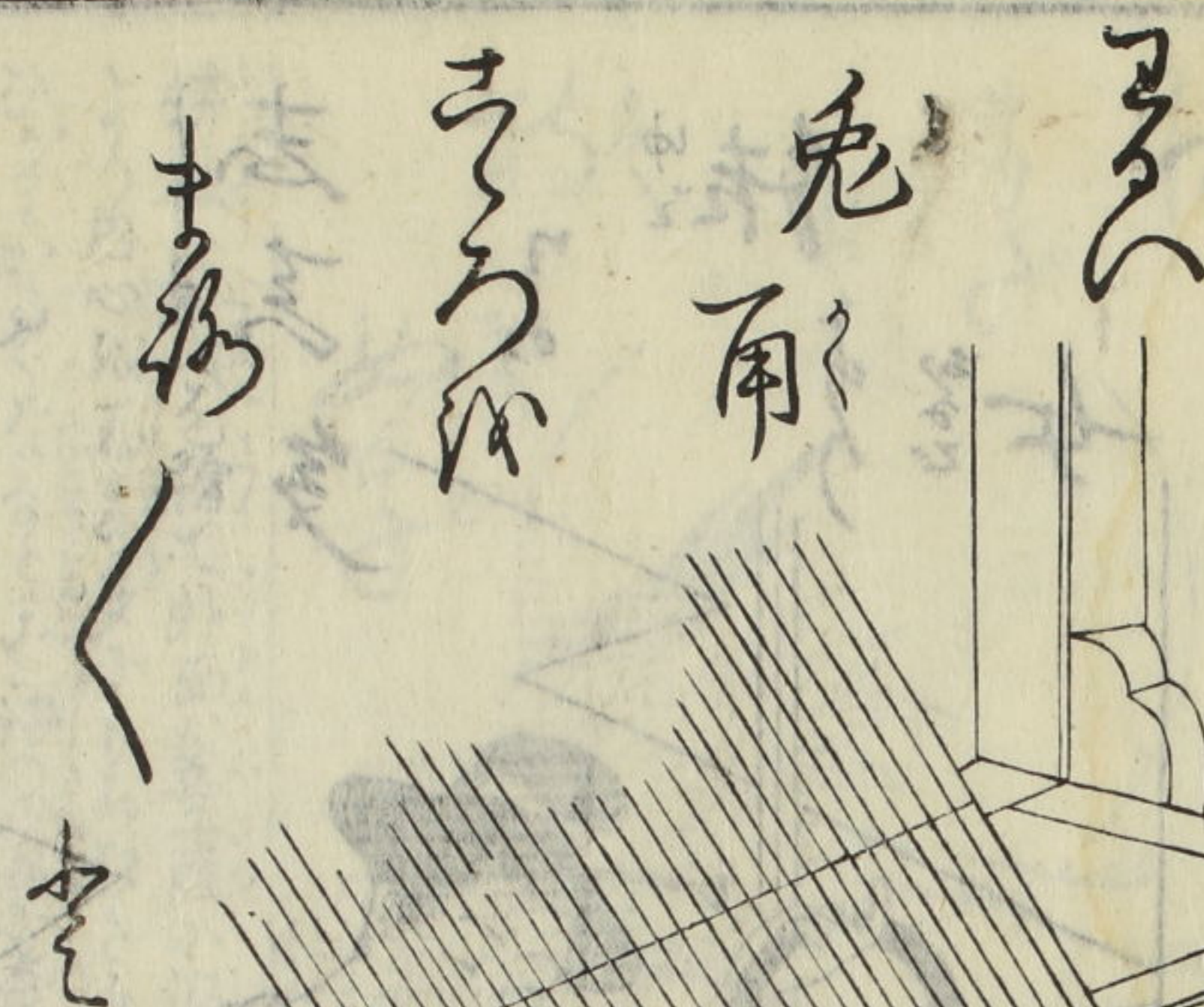
おれんとさきんじを後うかき後退して人あゆむれなりとて只
 人にまへにおろしうて人あゆむれなりとて只
 人のふらみをゆるみとて人あゆむれなりとて只
 めのいよく尻に尻をこき好い故にやとて只

川魚
酒片



中
七

是
兔
角
之
所
也



およそ拙^{うと}ふ角^{かく}やゝぬれ^ぬばよろしの拙^{うと}ふさうりありていとむづか^{づか}し人の心^{こころ}も
いぢうろくごづく^くはま^まばさうの拙^{うと}いぞ来て^{きて}むづか^{づか}し只^{ただ}心^{こころ}成^{なり}た^たい^いか
ふまろく^くとありて^てバ^バ何^{なに}のさうりごづあもなく安^{やす}穩^{えん}あり心の丸^{まる}きといふ
只^{ただ}とあ^あな^な心^{こころ}成^{なり}た^たい^いなり



心 結 志 媛
 女 子 多



心 結 志 媛
 女 子 多

佛教の女を指して外面の菩薩に似て内心の如くとは髪首をつくるの外とて人
 より内心の志多ふりたるをそのえたるを眉目より笑ふとて女より其を
 ひがめたるなるをその志の袋に米をまつていふとて一旦人の目に入るはあ
 見おやとて又もその志の袋に米をまつていふとて一旦人の目に入るはあ
 とるやに云ふとてその志の袋に米をまつていふとて一旦人の目に入るはあ
 後小い奥ふくみのりくをその志の袋に米をまつていふとて一旦人の目に入るはあ
 似たりともその志の袋に米をまつていふとて一旦人の目に入るはあ
 かしてその志の袋に米をまつていふとて一旦人の目に入るはあ

尺 へ 不 知



葉唐卿が漢父の吟ぜし詩は細裏無臭無酒錢酒家門外口流涎幾回欲解
 義衣當又恐明朝是雨天この待れ意相小く合ものう和漢同譚なり
 孔子之言人無事を急必有近憂と今年ハ来年の事を思ひ今月ハ
 来月の事を思ひ今日ハ明日の事を思ふなり

酒 飲 へ 酒 法
 お ぎ へ
 酒 旗





あゝ
 銀の
 職
 不
 る



か
 正
 教
 佛
 ふ

念佛一心ふあふ一心ふあふと歌毎日名号何百何人唱たふとて一心佛意の
 意せとんいまの念額のていなるべし仏といふも神といふも平意かある人々具足
 の心足とて心唯心の浄土已所れ弥陀といふ別心別佛とも云ふ神のちと云
 神の浄土ともいふ迷ふ時ハ生るる時ハ神佛ありとの持する人
 の意欲を為忍辱慈悲のを別佛也と清浄心也ハ別神ありあふ慈悲佛
 也ハ神もあつ人曰ふ心のこころとてえかく近きとて悟るは乃小迷ふは惜きなり也



明治四年
正月
泉氏